**自閉症**

自閉症については，カナーは特異な病像を示す乳幼児の精神病を「早期幼児自閉症」といい，アスペルガーもほぼ同様な症状を示すものを「自閉性精神病質」と名づけている。このように診断基準は確立されていない。原因はまだ不明で，親子関係によるという説，遺伝説，脳障害説などが考えられているがいずれも決定的なものではない。

教育センターに来所した子供にみられる特徴は，○孤立し距離をおいている印象（１００％），○人に対する興味の著しい欠損（１００％），○関心を持っても長続きしない（１００％），○視線が合わない（７１％），○表情が乏しい（５７％），○他人への同情・共感がない（８６％），○言語発達遅滞(100％)，○おうむ返し（７１％），○テレビに子守りをさせていた(８７％)○機械的ほ乳（６０％），○奇声や呼声（３６％），単純な反復遊び(５０％)などとなっている。

**受容**

「自己」や「他者」や「環境的世界」などの特定の対象に対して，一定の基準による評価的・選択的認知をしないで，暖かで好意的な信頼の感情で，それらを進んで認め，受けいれ，尊重しようとする態度（認知・感情・行動傾向のシステム）。ロジャーズは，治療者が患者をひとりの人間として認め，その可能性に対して基本的な信頼を寄せることが，さまざまな技法よりも一層治療的に重要であることを見出した。また，「無条件の積極的尊重」「学ぶ」「基本的信頼」などの語は，受容と同語に使われている。

**自律神経失調症**

生体の恒常性（homeoostosis）の維持に向かって，主体的にはたらいていいる神経系を自律神経系という。この系には，交感神経系と副交感神経系があり，前者は主として生体の緊張を，後者は弛緩をもたらすはたらきをする。従って失調状態とは，単に交感神経優位の緊張状態だけを指すのではなく，変動しうる状態にあっても，恒常性維持の目的に合わぬ反応を示す場合も指す。自律神経失調症は，この様な調節異常の総称であり，種々の不定な症状を呈する症候群であり，器質的変化はなく，自律神経系の調節より，症状を除去し得る